

皆さんこんにちは。西北五支部の中田です。

9月、10月の西北五支部の活動について報告します。

9月14日の土曜日、五所川原ふるさと交流圏民センターオルテンシアにて、「認知症フォーラム～認知症と共に生きていく～」が開催されました。

毎年この時期に開かれていて、ステージイベントや展示、体験、相談コーナーを通して、市民の皆さんに認知症をより身近なものとして知って頂けるような入場無料のイベントです。

当日は医師、歯科医師、薬剤師の先生方のシンポジウムや、薬剤師会による脳の健康チェック、作業療法士会や栄養士会、介護支援専門員協会の皆さんによる認知症の相談・体験コーナーもあり、様々な専門職の方々に参加して頂きました。

歯科医師会による歯とお口の相談や、看護協会によるキッズの白衣試着体験、お菓子の販売コーナーもあり、高齢の方だけでなく様々な年代の方が学び、楽しめるイベントなのでご興味のある方は是非次回ご来場下さい。

10月9日の水曜日、中泊町の湯らば一くにて第3回中泊町地域ケア会議が行われました。個別事例検討会を行い、提供された事例に対していくつかのグループに分かれて、前半は質疑応答、後半はそれに対する意見交換をしました。

今回は大病の疑いがあるが精査なしの利用者様を、家族としては医療専門職の経過観察下で支援していきたいが本人はサービスの利用に抵抗があるのでどうすればよいか、という事例でした。

中泊町地域包括支援センターの方々が中心となり、民生委員会や社会福祉協議会、ケアマネージャーや栄養士、理学療法士の方々と共に話し合いをいつもしています。

高齢になった二人暮らしのご夫婦が認知症となり、息子さんや娘さんは帰省したり市外から来てくれたりととても介護に協力的でサポートしてくれますが、本人の気持ちが乗らないとなかなかスムーズなサービス事業の利用にはつながっていかないというのも難しい問題だと感じました。

特に今回のケースでは、本人は温泉だけを利用したくて、デイサービスに定期的に行けば経済的な負担が家族にかかるから抵抗がある、といった考えもあるようでした。参加した皆さんからの提案、解決案を最後にまとめて終了となります。

最終的には本人の希望もあるので病院ではなく住み慣れた自宅で看取りたい、というご家庭は多いので、それまでは住んでいる地域の中でお互いに助け合い、見守りケアしていくことは今後もますます重要な課題です。薬局としても日々の業務の中で、何か出来ることを提案していければと思います。